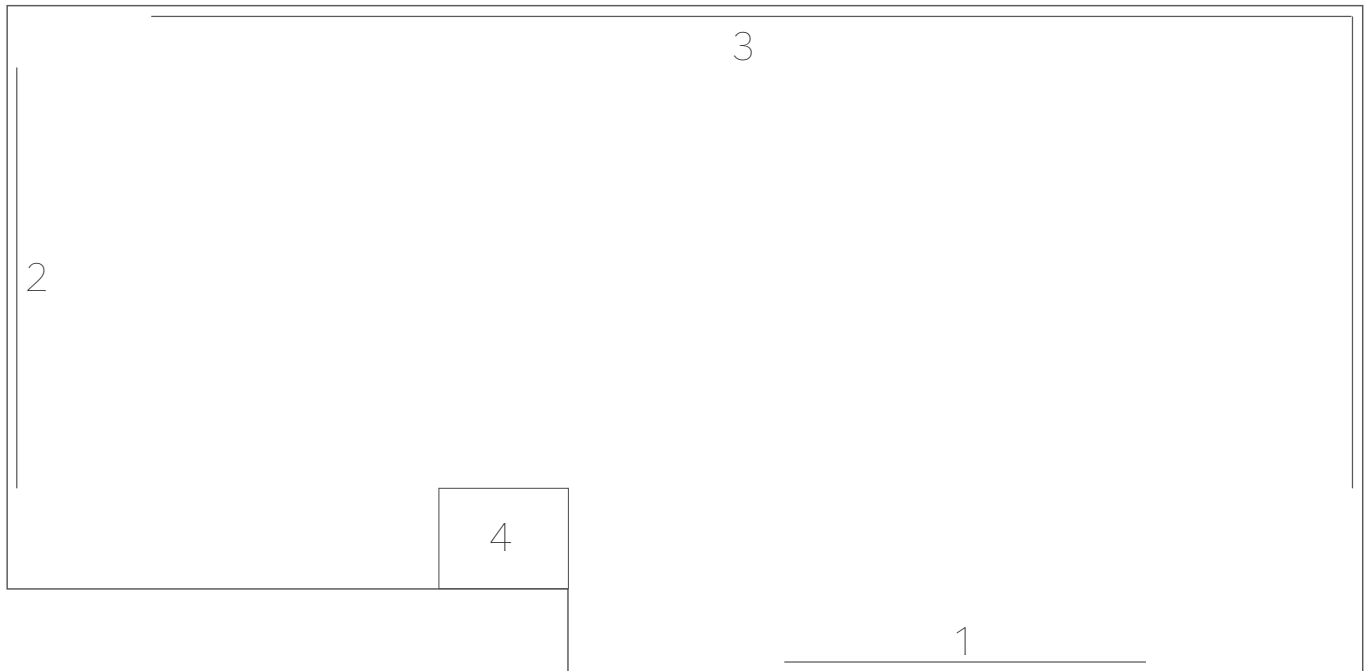


ハンネ・ダルボーフェン



- 1 《無題》 1970 鉛筆、ペン、タイプライター／紙
- 2 《“楽しやジブシー生活”》 1980 オフセット印刷 31シート+インデックス1枚
- 3 《環境〈80〉：今日（ヴァルター・メーリングのために）》 1980 オフセット印刷 137シート+インデックス2枚
- 4 《シャルル・ボードレール、ハインリヒ・ハイネ、エンリケ・サントス・ディセポロ、オメロ・マンシ、セレドニオ・フローレス、カール・クラウスのテキスト／ハンネ・ダルボーフェンによる選択、引用、コメント》
1975 『POUR Écirre la Liberté（自由を書くために）』 36葉 両面印刷

1-3：ヒロセ・コレクション蔵、4：個人蔵

慶應義塾大学アート・センターは「スタンディング・ポイントⅢ ハンネ・ダルボーフェン」展のカタログを制作予定です。ご予約をご希望される方は係員にお声がけください。

ハンネ・ダルボーフェン (Hanne Darboven, 1941-2009)

ハンネ・ダルボーフェンは戦後ドイツ美術において最も重要な作家の1人であり、極めて個性的な存在として知られています。ハンブルクを拠点として活動した彼女は、1960年代後半に2年間滞在したニューヨークで、ソル・ルウィット、カール・アンドレ、ローレンス・ウィナーなどと交流を結びました。この地で「時間」を空間化し、視覚化するという生涯のプロジェクトの契機を見出します。ドイツ帰国後に自らの表現形式を獲得して生み出された作品では「書く」という行為がベースとなり、紙面は数字や、テキストの転写、U字型波線などで満たされることになりました。作品には思い出から、歴史、政治、文学など多岐にわたる関心が示され、1980年以降は音楽にも展開していきます。

1 《無題》 1970 鉛筆、ペン、タイプライター／紙

1966年から1968年初めまでニューヨークで過ごしたハンネ・ダルボーフェンはソル・ルウィットやローレンス・ウィナーなど多くのアーティストと交流し、大きな刺激を受けた。グラフ紙に線分を引いていた彼女はやがて数字を用いるようになる。そして、ドイツに帰国後、暦を採用した独自の計算方法 (tagesrechnung =日にち計算*) を生み出し、そこから引き出した数字の循環や連なりを紙面に展開していく。

2 《“楽しやジブシー生活”》 1980 オフセット印刷 31シート+インデックス1枚

ドイツでは良く知られた歌曲「楽しやジブシー生活」をタイトルにもつ作品である。ダルボーフェン家のクリスマス・パーティーでジブシーのヴァイス一家が仕事仲間と共に音楽を奏でる様子が写真に捉えられている。ダルボーフェン自身も頻繁に登場している。テキスト部分は多くの作品で写真のすぐ下の行に取消線を施して書かれる「gedankenstrich (+e)(思考の線)」を除いて、すべてU字型波線で表現されている。

3 《環境〈80〉：今日 (ヴァルター・メーリングのために)》 1980 オフセット印刷 137シート+インデックス2枚

ハンネ・ダルボーフェンの多くの作品に登場する彼女独自の「tagesrechnung =日にち計算*」が展開する部分、様々なテキストを転写した部分、1980年の日にちを数える部分など、幾つかの構成要素から成り立つ作品。読み解いて行くと、1980年について、10月5日の西ドイツ総選挙を基軸に構成されていることが分かる。

4 《シャルル・ボードレー、ハインリヒ・ハイネ、エンリケ・サントス・ディセポロ、オメロ・マンシ、セレドニオ・フローレス、カール・クラウスのテキスト／ハンネ・ダルボーフェンによる選択、引用、コメント》

1975 『POUR Écirre la Liberté (自由を書くために)』 36葉 両面印刷

タイトルに示された作家たちのテキストをタイプ打ちで示した後に、手書き転写したテキストとその転写制作日についての「tagesrechnung=日にち計算*」が展開する。経営困難に陥ったベルギーのリベラルな雑誌『POUR』のチャリティーのために開催された展覧会にハンネ・ダルボーフェンも協力してこの作品は制作された。

* ハンネ・ダルボーフェン独自の日にち計算

暦の数字について以下を合計する：日+月+西暦年の10の位の数+同1の位の数

例えば、1941年4月29日→29+4+4+1=38